

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

資料2-2

令和 年 月 日

協議会名:	当別町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>当別町は、札幌市と境界を接し、札幌中心部から約15～25kmに位置しており、面積は、422.86平方キロメートル。人口(令和4年12月1日住民台帳)は、15,338人である。</p> <p>コミュニティバスは、スウェーデンヒルズ地区とJR太美駅を經由し、札幌市北区とを結ぶ地域間幹線路線とこれに付随するフィーダー5系統を確保している。</p> <p>地域間幹線路線については、札幌市への通勤・通学で利用されているほか、北区にある大学病院に接続しているため、高齢者等の通院にも多く利用されており、大型スーパーも經由していることから日常生活に不可欠なものである。</p> <p>令和2年4月にはJR札沼線の一部路線(北海道医療大学～新十津川間)が廃線となったため、代替バスとして、同月より月形当別線(JR札沼線当別駅南口～石狩月形駅)の運行を行っている。</p> <p>フィーダー系統は、コミュニティバスの基点となっているJR当別駅南口で幹線と接続しており、市街地から離れている青山・みどり野地区からの輸送する青山線や市街地におけるデマンド交通として市街地予約型線を運行している。どちらの系統も高齢者の通院や買い物に利用されており、地域の足として必要不可欠なものと考えている。一方で、地方における人口減少により利用者の絶対数が少ない中で利用者の促進を図るため、運行形態を検討し、利用者ニーズに即した需要の高い交通を維持することが必要である。特に青山地区では、住民が減少しており今後も急激な住民増加が見込めないことから利用者実態に合わせた運行にするため、平成28年10月から青山線の路線の一部をデマンド型交通とし、運行内容を見直した。平成28年3月に当別町と江別市を結ぶ廃止代替路線である当江線が利用者の低迷から廃止となったことで、一部地域が交通空白地域となり、その地域に居住する住民の市街地への足を確保するため、平成28年10月から市街地予約型線の運行エリアを拡大した。</p> <p>また、平成29年9月に開業した道の駅へ向かう路線の実証運行を開始し、道の駅への誘客や西当別地区の公共交通の充実が図られたことから、平成30年10月から西当別道の駅線の本格運行を開始した。</p> <p>これらの住民に根付いたコミュニティバスシステムを維持し、交通弱者である子どもや高齢者の移動手段を確保することで、住民の住環境の向上、高齢者の行動範囲拡大による健康増進を図るほか、コミュニティバスを通じた環境教育による環境意識の啓発にも資することができる。</p> <p>一度失ってしまったバス交通を回復させるために5年の歳月を要したことを考えると、バス路線は容易に廃止すべきものではなく、町民の健康で安全な必要最低限の住環境を守るためにも、地域公共交通の中心であるコミュニティバスを確保することは重要である。</p>